



# 読売俳壇

## 高野ムツ才選

建国日戦を知らぬ命と愛

京都市 根来美知代

【評】戦後八十年。昭和二十年生まれも傘寿を越えた。建国記念の日の制定はその二十一年後。戦争を知らない子供たちのヒットは昭和四十六年めでたく皆命と愛になった。妻の打つ鬼打豆の激しけれ

神戸市 岸下 庄二

【評】今年、殊に豆の打ち方が激しかった。声も大きかった。厄災多い一年だったのだろう。作者が病いを得ていたのかも知れない。冬籠といふよりこころ籠

寒河江市 大谷 正行

【評】冬籠より雪籠の方が居住空間の暗さに加え、住む人の心理的な重さを伝える。「こころ」との軽妙な物言いは雪国人の逞しさゆえ。下萌や活断層の真上にも

日立市 菊池 三三夫

太陽に献ずるとき春の水  
医学部の煌々として春の雪  
春泥も子には極楽またひとり

宇都宮市 大淵 久幸

放課後の合唱練習春の雪  
人類に生れし幸せ畑打つ

八王子市 徳永 松雄

## 正木ゆう子選

油菜の咲く野沢菜の畑かな

大阪府 池田 寿夫

【評】素人には見分けがつかなくても、畑の主にはわかるのだろう。種が混じっていたか、飛んできたか。野沢菜畑に咲いてしまった油菜とは、微笑ましくて、絵本になりそう。まづもつてじやがいもよりと耕せり

大分市 加藤 元二

【評】先ず植えるのはじゃがいも、というシンプルな内容に、大仰なまづもつて「が味わいを醸す。一字以外すべて平仮名の表記にも、遊び心うべひすの啼いて振り向くライトの子

吹田市 前田 尚夫

【評】草野球だろうか。ライトを守っている子供の後ろは藪なのだろう。鶯の声に反応するなんて、見所あり。将来はぜひ俳句甲子園に。落の墓卒寿の先にある未来

佐倉市 大塚 正明

春の虹浮かぶ生まれて来る子の名  
黒雲に肋を見せて龍天に

神戸市 音羽 和俊

セーターの平干しにして腕長し  
あたたかや現場づくりの現場めし  
春昼や老いたる犬は内股に  
温もりを残せし蓬餅届く

那珂市 綿引多美子

## 小澤 實選

少し吹き夫にも湯湯供へたる

上尾市 小村 勝子

【評】仏壇の、今は亡き夫にも、少し吹いて冷ました湯湯を供えているわけだ。夫が生きていた時も、熱い汁ものは舌をやけどしないようにそうしていたのかも知れない。馴初めも結婚式もスキー場

栃木県 あらあひとし

【評】ということは、重ねて来たデパートもスキー場であったか。両人もスキーの名手になっていて、結婚式でも滑りを披露するかも。落の墓もすすぐ汽車の来るなぞへ

川越市 大野有之介

【評】「なぞへ」は斜面である。あなたに蒸気機関車の煙が見えてきているのかもしれない。機関車が通ると危険なので、急ぎ取る。梅を嗅ぐ時だけ黙る女なり

白井市 毘舎利道弘

撫でてよと駆けよる猫よ春深し  
雪なるまぼくの帽子をかぶせたよ

川崎市 鈴木 文明

白画像をひとつ仕上げて卒業す  
麗らかやキッチンカーのカツサンド  
猫の舌ざらりとバレンタインの日  
また戦後銃創痕の父の冬

青梅市 松野 英昌

## 津川絵理子選

薄氷に足を滑らす雀かな

白井市 毘舎利愛子

【評】実際にこんな奇跡的な光景に出会ったのだろう。薄氷はすぐに割れる儂いイメージがあるが、雀は割れないのだ。身近な雀の、なんと愛嬌のある一瞬だろうか。門柱の鳥の声も春立ちぬ

宇都宮市 津布久 勇

【評】門柱に鳥、これだけだと不吉な気がするが、立春と思つとめでたさが感じられるから不思議。いつもの鳥の声とは違つて聞こえる。国生みの始まりそんな春の泥

横浜市 吉野 暢

【評】天沼矛でかき回したら、国が生まれるかもしれない。広くて深さもありそんな春泥である。春の泥から国生み神話への飛躍が面白い。どれどれフキノトウ今年は何つ生る

藤沢市 藤沢・マグネット

待春の石架替ふる妻の杖  
蒲公英のぼほの響きはピアノシモ

大阪市 今井 文雄

病室の窓あかあかとお山焼  
ゆで玉子の白さ春立つ日なりけり  
地鳴りさせ過ぐるマラソン土手青む  
撫でられて尼僧の膝の子猫かな

川越市 益子さとし

## 枝しり折



西生ゆかり『パブリック』 第88回角川俳句賞受賞者による第1句集。鋭く切り取った情景から、時に激しい心情が浮かび上がる。へさくらさくらはこれは覚えておくぞ

(左右社、2640円)

◆第65回俳人協会賞 蘭草慶子『雪日』(ふらんす堂)

◆第49回俳人協会新人賞 遠藤容代『明日の鮑』(ふらんす堂)、庄田ひろみ『聖河』(ふらんす堂)

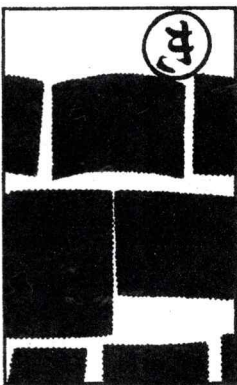
◆第40回俳人協会評論賞 福井拓也『久保田万太郎とジャンルの諸相』(鼎書房)

◆第40回俳人協会評論新人賞 池田瑠那『境目に立つ、異界に坐す』(文学の森)

◆第12回新説評論賞 伊藤幹哲『俳句の円環的な読みに関する試論』

◆第37回日本伝統俳句協会賞 藤井啓子『祇園祭』(30句)

◆第37回日本伝統俳句協会新人賞 菅谷系『日の匂い』(30句)



題字デザイン・イラスト 福田美蘭